

1 道志水源林の保全

水道局では、道志川が流れる山梨県道志村に水源林を取得して、約100年に渡る管理・保全を行っています。道志村は豊かな森林に恵まれており、道志川の水質はきわめて良好だと聞いています。

水道局が取り組んできた水源林の管理・保全の取組が、横浜に本部を置く「国際熱帯木材機関（ITTO）」から高い評価を受け、昨年4月にコスタリカ共和国で開催されたITTO主催の「熱帯林の環境サービスへの支払いに関する国際フォーラム」で発表する機会を得て、横浜市の水源地保全の実例が評価されたと聞いています。

また、これを受けて、11月には、シドニーで開催された世界自然保護連合（IUCN）主催の保護区に関する国際会議でも発表を行ったと聞いていますが、

（1）これらの会議に横浜市が呼ばれて発表した背景として、熱帯森林に関して国際的にどのようなことが課題になっているのか伺います。

昨年の決算第二特別委員会で、我が党の斉藤委員からも国際会議の概要と成果について質問をし、横浜市が取組が会議後の声明文の中で紹介されるなど、主催団体や他の参加者から高い評価を得たと聞きましたが、

（2）どのような点が評価されたのか伺います。

単なる水源林の管理だけではなく、市民ボランティアと協働、水源地域への支援など、様々な取組みにより水源林が持続的に保全されていることは、熱帯林保全に取り組む途上国にとって非常に参考となったのだと思います。

このように高く評価されている水源林保全の取組みを継続していくためには、水源域の恩恵を受けている市民の理解や協力が重要と考えます。そこで、

（3）市民の支持を得るための啓発活動の実施状況について伺います。

受益者である市民のより一層の理解を得るためには、伝えるメッセージにストーリー性や訴求力があることがポイントとなると考えます。ここで改めて

（4）水道局では水源林保全の取組みを発信していくことの意義をどう考えているのか伺います。

水源林保全の大切さについて、広く理解と関心を深めることは重要です。

28年度には、水道局が道志村内に水源林を取得して100年を迎えるわけですが、今後も計画的に水源林の管理・保全を推進して、この大事な水源を守っていかねばいけないと考えます。

自然環境は、私たち人間やその他の生物のためにも守らなければいけません。

森林を守ることは、自然環境を守るために大変重要なことだと考えます。

自然環境を次世代に引き継ぐ意味でも、今後も水源林の管理・保全を推進していただくことをお願いして、次の質問に移ります。

2 西谷100年・小雀50年浄水場創設記念事業

さて、水源林の取得と共に、27年度は、「西谷浄水場」が創設100年、「小雀浄水場」が創設50年を迎えるということで、記念事業を行うと聞いています。

市民の皆さまから水道事業に対して、親しみやご理解をいただくことは事業を継続して行く上でとても大切なことで、局と市民でお互いが共有できる事業などを展開することが必要だと考えます。

そこで、

(1) 既に取り組んでいる事業は何かあるのか伺います。

近隣の小学生や地元自治会等と連携して色々と取り組んでいることが分かりました。

まず、近隣や地元の皆さまを大切にして、イベント等において水道事業をご理解いただくことは、とても良いことと考えます。

27年度では、更に横浜市全体に向けた事業の取組を発信していただきたいのですが、

(2) 今後の創設記念事業の内容について伺います。

既に終了している事業から今後開催する事業など、お客さまをおもてなしする盛りだくさんの企画を計画していることが分かりました。

市民の皆さまには、楽しんでいただけることと思いますが、

(3) 記念事業を行うことによる効果について伺います。

市民の皆さまが、安全で安心な水道水を将来に渡り供給されることを再確認できた上、長年の感謝の意が伝わり、より親しみや理解が深まり更なる信頼関係が構築できるとのことで、たいへん重要な取組と理解します。

昨今、蛇口をひねれば水が出るのが当たり前の時代となっておりますが、記念事業を通じて100年の歴史を市民の皆さまと振り返り、ぜひ、水道水の大切さを、改めて共有できるような取組

にさせていただけることを期待します。

3 アフリカへの国際貢献の取組

さて、横浜水道も今年で128年の歴史を迎えますが、今日、人口370万人を有する大都市に成長してきたのも、水道の発展が大きく寄与しているものと思います。横浜の近代水道事業は、当時、イギリス人技術者パーマー氏を迎え、水道の建設にご協力いただいたことから始まっています。こうしたことへの恩返しの意味からも水道局では、国際協力にも力を入れていると聞いております。

今月10日に、市議員の有志による「日本アフリカ友好横浜市議員連盟」が設立されました。これは平成20年と25年にアフリカ開発会議（TICAD）が開催された横浜とアフリカ諸国との友好促進を目指すものです。

水道局は平成20年の第4回アフリカ開発会議を契機に、JICAと連携して研修員の受入をスタートし、毎年アフリカへの支援に大変積極的に取り組んでいると聞いています。

そこでまず、

（1）アフリカ諸国を対象とした研修の実施状況について伺います。

事業開始から7年目を迎え、これまで多くの研修員を受け入れたとのことですが、文化や習慣、水道の置かれた状況も異なる中で、ご苦労もあったと思います。また、毎年、研修内容の改善にも努めてこられたことと思います。

そこで、

（2）JICAや参加者からの評価について伺います。

横浜水道の総合力を活かして、満足度の高い研修を行っていることがわかりました。さらに、24年度から、JICAと連携した新たな取り組みとして、職員の派遣に取り組んでいると聞いています。

そこで、

（3）職員派遣の取組内容と今後期待する効果について伺います。

この職員派遣が、アフリカ諸国と横浜市水道局の架け橋になる、継続的な交流になっていくことを期待します。

最後に、

（4）今後のアフリカ支援に向けた局長の意気込みについて伺います。

今年、「日本アフリカ友好横浜市会議員連盟」設立元年ということで、本活動では、「アフリカに最も近い都市」を目指していきたいと考えています。水道分野においても、水道局がアフリカへの支援を通じてその一翼を担っていただきたいと思います。今後一層の活躍を期待します。

4 老朽管更新・管網整備による配水管の耐震化

続きまして、近年全国的に問題となっている老朽化するインフラ施設への対策と災害対応力の強化という視点で質問させていただきます。先ほどの答弁にもありましたが、本市では膨大な管路を保有しており、健全なライフラインを維持管理する上で、年間 110 k m の更新事業を着実に進めているとのことですが、地震大国と言われる我国の状況を踏まえると、110 k m を上回るペースで更新し、管路の早期の耐震化を図る必要があると考えます。そこで、

(1) 老朽管更新・耐震化のペースアップに対する考え方 について伺います。

今後も耐震化を進めていく中で、先ほどの答弁にもあった重要拠点施設への管路の耐震化は、効果的な取組と期待しています。

27 年度予算概要を見ますと、29 年度までに 50 か所の計画とされているとのことですが、現在の計画が終了する 30 年度以降の事業の継続や対象施設の拡大も必要であると考えています。そこで、

(2) 重要拠点施設への管路の耐震化の今後の方向性 について伺います。

震災時における重要な拠点は、まだまだ数多くありますので、現計画の 50 か所をできるだけ早く完了して、次のプランへ移行していただきたいと思います。いざ震災に見舞われた際に、市民が不安を抱くことがないように、先ほどの答弁にありましたような視点を取り入れた今後の事業計画を期待しています。

5 道路内老朽給水管改良促進事業

水道局の保有する水道管路の更新、耐震化について伺いました。

道路内で発生している漏水の主たる原因は、配水管ではなく、市民の皆さまが所有する老朽化した給水管であると聞いております。また、この道路内の老朽給水管は、震災発生時には多数の被害が想定され、水道復旧の妨げとなることも考えられます。そこで、

(1) 道路内の老朽化した給水管の現状について伺います。

この道路内の漏水の主たる原因である老朽給水管の改良を促進するため、水道局では、今年度から水道局負担で老朽給水管を改良する「道路内老朽給水管改良促進事業」を開始したと聞いて

いますが、

(2) この事業の概要及び受付状況について伺います。

この事業を市民の皆さまが活用することにより、老朽給水管の解消が促進され、災害時等には市民の皆さまの安全を守ることに繋がると考えますが、

(3) この事業導入による効果について伺います。

この事業は、市民の皆さまと局に加えて社会的にも大きな効果が期待できる事業と考えます。この事業を市民の皆さまに積極的に活用していただくよう積極的な広報を実施し、また、市民の皆さまの安全を守るためにも、引き続き事業の推進に努力していただきたいと思ひます。

6 横浜水道安全・安心パートナー

先の東日本大震災では、燃料を求めてガソリンスタンドに長蛇の列ができた光景をみなさんは覚えていることと思ひます。災害時において、復旧活動に従事する車両や非常用発電に必要な燃料はもっとも重要なもののひとつです。

それを踏まえて、水道局では「横浜水道安全・安心パートナー」という、地震災害時に必要となる燃料の確保について、民間事業者と協力してもらうための緩やかな枠組みの登録制度を設けており、私も社会貢献活動に熱心に取り組んでいる戸塚区の燃料供給事業者さんを何社か紹介させてもらいました。そこで、

(1) 「横浜水道安全・安心パートナー」の燃料供給について、現在どれくらいの事業者が登録しているのか伺います。

昨年度から燃料供給に続いて、材料の供給についても、制度を開始したと聞いていますが、

(2) 「横浜水道安全・安心パートナー」の材料供給の導入の経緯及び登録状況について伺います。

制度というものは作るだけではだめで、災害時のいざという時に役に立つものとするには、登録事業者に対するきめ細かなフォローが重要になってくるものと思ひます。そこで、

(3) 登録してくれた事業者に対してどのような対応をしているのか伺います。

このような取組は、今後も続けていってこそ、災害時における復旧活動で必要となるであろう、水道局と民間企業とをつなぐ絆が育つものと思ひます。

また、登録事業者さんにお話しをお聞きしますと、道志水源林の間伐材で作った登録証の盾などは非常に好評だと聞いています。

そこで、

(4) 登録事業者の意欲を高める工夫を行ってみたいと思いますが、いかがでしょうか。

現在、社会貢献活動は民間企業の社会的評価を決定づける非常に重要なポイントの一つでもあり、災害時においても大切なライフラインである水道を守るための活動に協力したいという意欲のある事業者が多くいらっしゃることを実感しています。

今後もこのような取り組みをさらに充実させることをお願いして、次の質問に移りたいと思います。

7 応急給水拠点の認知度アップ

次に、水道局の主要事業の一つである、応急給水拠点の認知度アップの取り組みについて質問をしていきたいと思います。

水道局では大規模地震などの災害に備えて、水道施設の耐震化を進めるとともに、万が一の断水に備えて、市民が給水を受けることができる応急給水拠点を整備しています。

そこで、改めて

(1) 水道局が整備している応急給水拠点とはどのようなものか伺います。

断水時に飲料水を確保できる応急給水拠点は、市民にとって非常に重要な場所となります。しかし、市民が施設や場所について知らなければ有効なものになりません。そこで、

(2) 応急給水拠点の認知度はどのくらいか、伺います。

現状の認知度では、まだまだ市民の安全・安心の確保に不安があります。市民の皆さんに、飲料水が得られる場所として応急給水拠点を知っていただくには、様々な手法を用い、工夫をしていただく必要がありますが、

(3) 認知度をあげていくために、どのような取組を進めるのか、伺います。

市民にとって、分かりやすく、伝わる取り組みを進め、一人でも多くの市民の方に応急給水拠点について知っていただけるようお願いします。

8 消火栓を活用した応急給水

応急給水拠点の認知度を上げていく取り組みは重要ですが、応急給水拠点を補完する観点から「消火栓を活用した応急給水」も災害時の水の確保に有効と考えます。

先日 2 月 22 日、日曜日に、瀬谷区の原小学校において、地域防災拠点における飲料水確保の

一環として、総務局や区役所と連携して、消火栓からの応急給水の試行を実施したと聞いています。

(1) 消火栓を活用した応急給水の技術的な課題と対応について伺います。

災害時の飲料水確保の強化を図るために、消火栓を活用した応急給水の実施に向けて、各局が連携して取り組んでいることは、評価できると考えます。

今後も、引き続き積極的に課題解消にむけて取り組むことを要望します。

9 国際会議での水道局の取組の発信

これまで水道局の取組について伺ってきましたが、これらの取組について国際会議等を通じて海外へ発信することについて伺います。

本市は、M I C E 推進の一環として国際会議を積極的に誘致していますが、水道局は昨年7月に J I C A と連携してアジアの水道事業者幹部を招いたフォーラムを横浜で開催するとともに、I T T O と連携して水源林保全の取組を発表するなど、国際会議を活用し、水道事業の課題解決に向けた情報を世界の水道関係者と共有していると聞いています。特に本年11月には、アジア初の開催となる国際水協会 戦略的アセットマネジメント会議 アイダブリュエー リーザム I W A L E S A M にせんじゅうご 2015を横浜で開催すると聞いています。

そこで、

(1) L E S A M の概要及び横浜で開催する意義について、伺います。

横浜は日本近代水道発祥の地であり、約130年の長きにわたって培ってきた豊富な知識と経験を有しています。あらゆる面から持続可能な水道事業を運営していくために尽力し、安心・安全な水を供給し続けていることは、世界に誇るべき横浜水道のブランドとも言え、世界に発信していくべきと考えます。

そこで、

(2) 今後も国際会議を通じて水道局の取組を積極的に世界にアピールすべきと考えますが、局長の見解を伺います。

世界の安定と発展に貢献するさらなる取組を期待して、私の質問を終わりたいと思います。